

テオドール・ジェリコー

19 世紀前半に活躍したフランス・ロマン主義の先駆的な画家。フランス・ルーアンの生まれ。ジェリコーは、古典主義を基本にしながらも神話や宗教画ではなく、現実社会を表現することに重きを置いていた。こうした流れは、「民衆を導く自由の女神」で有名なドラクロワらのロマン主義やクールベらの写実主義、そしてその後につながる印象派などに大きな影響を与えた。代表作の「メデューズ号の筏」は、現実起きた軍艦が難破した事件を題材に、人間存在の本質に迫る徹底した写実的表現を追求している。なおこの作品で、漂流者のモデルを務めた友人の一人がドラクロワである。また、ジェリコーは馬を題材とした絵も多く描いているが、落馬事故が原因となり 32 歳の若さで亡くなった。